

学習意欲を高める算数科の評価の在り方について

打田町立池田小学校
教諭 富本真司

I 研究主題の設定

1 研究主題設定の理由

変化の激しい時代をたくましく生き抜くために、子どもたちにとって、自分で考えて判断、選択、決定していくための力を養うことが重要である。新学習指導要領では、基礎・基本を徹底し、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむ観点から、個性を生かす教育の充実のために、学校教育の質的な転換が求められている。

この「生きる力」を知の側面からとらえたものが「確かな学力」で、知識・技能に加え、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力とされている。

「確かな学力」をはぐくむ上で、学習意欲の向上がカギを握っていると考えられる。

「学力」に関する国際的な調査(IEA OECD)によると、算数・数学の成績は世界的に見て上位であるにもかかわらず、「算数が好き」といった「興味・関心・意欲」の面では低いという結果や、学習意欲が必ずしも高くないこと、学習習慣が十分身につけていないことなどの課題が指摘されている。

また、評価の在り方についても、目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)を重視することや、指導と評価の一体化を図る、すなわち評価を児童生徒の学習の改善に生かすことなど大きく見直された。

本研究では児童の学習意欲が向上する評価や指導の改善に役立つ評価の在り方についての研究を進めていくことにした。

2 仮説

「学力」を適切にとらえるための評価規準と評価方法を開発し、それをもとに学習指導を行う。その際、グループ学習や自己評価活動を取り入れることで、「学ぶ楽しさ」を味わうことができれば、学習意欲が高まるであろう。

上記の研究仮説をもとに、授業の改善点を以下の3点にまとめ、検証授業を実施した。

- (1) 学習指導案作成のときに、子どもの「学力」を適切に見取れる評価規準を設定し、指導の改善に生かす。
- (2) 算数科の目標にある算数的活動(ここでは「思考活動」)を通して、課題が解ける喜びを児童に味わわせたいと考えている。一斉指導だけでなく、友達どうしで意見を交換するといった教えあう場面も意図的に設定し、友達の意見や発表を聞き、自分の考えと照らし合わせることで課題解決のための考える力を高めたい。
- (3) 自己評価活動を学習活動の中に取り入れることで、子どもの学ぶ意欲が高まることを期待したい。その際、自己評価能力を育てるという観点から、子どもに書かせる作業を取り入れ、自分自身の学習状況を的確に捉えさせたい。

II 目標に準拠した評価を進める手順

目標に準拠した評価を進める場合、その単元の重要な目標をもれなく洗い出すことが重要になる。具体的には、以下のような方法で取り組むことにした。

1 学習指導要領における各教科の目標、内容の把握

(1) 算数科の目標分析表の作成(表1)

学習指導要領に示された算数科の目標を、国立教育政策研究所教育課程研究センターが公表した「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」(以下「国研資料」とする。)の「学習指導要領の内容のまとめりごとの評価規準」を活用し、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点から分析する。

観 点	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形について の表現・処理	数量や図形について の知識・理解
教科目標	数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。			
評価の観点及びその趣旨	数理的な事象に関心をもつとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、日常の事象の考察に進んで生かそうとする。	算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、見通しをもち筋道を立てて考える。	数量や図形についての表現や処理にかかわる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味、性質などについて理解している。
学年目標	【5年】 (1) 小数及び分数の意味や表し方についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにするとともに、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。 (2) 面積の求め方についての理解を深めるとともに、基本的な平面図形の面積を求めることができるようにする。 (3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、基本的な平面図形についての理解を一層深めることができるようにする。 (4) 百分率や円グラフを用いるなど、統計的に考察することができるようにするとともに、数量の関係を式で表したり、式をよんだり、その関係を調べたりすることができるようにする。			
学年別評価の観点の趣旨 (5年)	数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、進んで活用しようとする。	算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、論理的に考えたり、発展的、統合的に考えたりする。	小数や分数の計算が確実にでき、それらを用いるとともに、図形の面積を求めたり、図形の性質を調べたり、数量の関係を表したり調べたりする。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、小数や分数の計算の意味、面積の求め方、基本的な図形の意味や性質及び数量の関係の表し方や調べ方を理解している。
学習指導要領の内容と評価規準	A 数と計算 【5年】 (1) 整数の性質についての理解を深める。 ア 整数は、観点を決めると偶数、奇数に類別されることを知ること。 (2) 記数法の考えを通して整数及び小数についての理解を深め、それを計算などに有効に用いることができるようにする。 ア 10倍、100倍、1/10、1/100などの大きさの数をつくり、それらの関係を調べること。 (3) 小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。 ア 乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。 イ 乗数や除数が整数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。 ウ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。			
A 数と計算の評価規準	整数、小数、分数の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気付き、進んで活用しようとする。	整数の性質、記数法、小数の乗法及び除法、同分母の分数の加法及び減法、概数にかかわる算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、論理的に考えたり、発展的に考えたりする。	整数を偶数、奇数に分けること、整数や小数の10倍、100倍、1/10、1/100などの大きさをつくることができ、小数の乗法及び除法、同分母の分数の加法及び減法の計算ができるとともに、目的に応じて和、差を概数で見積もることができる。	整数、小数や分数についての感覚を豊かにするとともに、整数の性質と記数法、小数及び分数の計算の意味、和や差の概数での見積りについて理解している。

(表 1) 算数目標分析

(2) 各学年の単元と評価規準のマトリックスの作成 (表2)

目標分析で明らかにした算数科における各学年の評価規準と各単元との関連を明らかにするとともに、学年内や学年間の重点の系統性を明らかにするため、縦軸に各単元、横軸に4観点をとり、2次元のマトリックスを作成する。

単元については教科書の目次を、4 観点については「国研資料」の「学習指導要領の内容のまとめりごとの評価規準」を活用する。もっとも関連が深いものに◎、関連が深いものに○を2次元のマトリックスの個々のマス目に記入する。

[illegible]

(表 2) 算数 5 年 単元と評価規準のマトリックス

2 単元目標の設定

単元の目標の設定にあたっては、次の(1)～(5)の順で具体化していくことが大切であり、以下にそれぞれについて詳述することにする。

(1) 単元目標の具体化

ア 中核目標の設定

その単元で、これだけは絶対にはずせないという本質的な意義を持つ目標を中核目標として設定する。

学習指導要領の目標や内容に基づくもので、上記 1 (2) のマトリックスにおける◎がこれに相当する。

イ 前提目標の設定

既習事項の中で、その単元を進めるにあたっての土台や前提となるもので、理解や定着の再確認をしておくべき事項を前提目標として設定する。

「国研資料」の「学習指導要領の内容のまとめりごとの評価規準及び評価規準の具体例」を活用する。

ウ 基礎目標の設定

中核目標を支える目標で、評価規準として活用できるものとして設定する。
目標に準拠した評価は、単元のねらいとしての目標が評価の対象になるので、吟味された目標であれば、これを評価規準として用いることができる。

エ 発展目標の設定

その単元で必ずしも達成しなければならないといった目標ではないが、個に応じた指導の充実を図るという観点から、子どもの能力・適正、興味・関心等に応じて、さらに学習を広げたり、深めさせたいという事項や課題を発展目標として設定する。設定にあたっては、文部科学省の「個に応じた指導に関する指導資料―発展的な学習や補完的な学習の推進―」等を活用する。

(2) 単元の目標分析表の作成（表3）

【中核目標】				
○算数への関心・意欲・態度 …身の回りの事象を割合を用いて考えたり、百分率や円グラフ、帯グラフを活用して表そうとする。				
○数学的な考え方 …数量の関係を数直線や式に表して考える。				
○数量や図形についての表現・処理…2つの数量から割合を求め、百分率に表すことができる。帯グラフや円グラフに表して特徴や傾向をとらえることができる。				
○数量や図形についての知識・理解…割合、百分率の意味がわかる。割合を表すグラフとして、帯グラフ、円グラフの意味がわかり、そのよみ方やかき方がわかる。				
本時の目標 (評価規準)	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形について の表現・処理	数量や図形について の知識・理解
前提目標	・四則の混合した式や()を用いた式のよさに気づき、式を適切に用いようとする。 ・公式を用いると、数量の関係を一般的にとらえることができるというよさに気づき、進んで用いようとする。	・四則の混合した式や()を用いた式について、計算の順序を判断する。 ・公式を多面的にみることができる。 ・公式から、一方の数量が決まれば他方の数量も決まるという関係を考える。	・数量の関係を式で簡潔に表したり、それをよんだりすることができる。 ・四則の混合した式や()を用いた式について正しく計算することができる。 ・公式を用いることができる。	・数量の関係を式で簡潔に表したり、それをよんだりする方法を理解している。 ・四則の混合した式や()を用いた式について理解している。 ・公式についての考え方を理解している。
①割合	！ 割合の意味を理解し、割合やくらべる量、もとにする量を計算で求めることができる。 ！			
	●日常の事象を割合で考えるよさに気づき、様々な場面で用いようとする。	●日常の事象で2つの大きさを比べる場合に割合で考えようとする。	●割合の意味を理解し、割合やくらべる量、もとにする量を計算で求めることができる。	●割合の意味や割合、くらべる量、もとにする量を計算でもとめる仕方を理解している。
1 ・クラブ活動の希望調査をもとに、本単元の学習課題をとらえる（関） ・割合の意味と割合の求め方について理解する（知）	・希望者が多いのはどのクラブかを考えようとする。 ・定員と比べて、希望者が多いか少ないかの判断の仕方を、サッカーとソフトボールのクラブについて考えようとする。			・2つのクラブの倍率を求め、その意味を理解している。 ・割合の用語を知り、割合の求め方をまとめている。 ・定員を1としたときの希望者の割合の表し方を理解している。
2 ・全体と部分、部分と部分の割合を求めることができる（考）（知）		・問題文を読んで、部分と部分の割合を求める問題を考える。		・関係図や線分図をかいて、125人の□倍が75人であるという関係を理解している。 ・文化クラブの人数の□倍が、運動クラブの人数であるという関係を理解している。 ・全体と部分、部分と部分の割合を求める問題の解き方を理解している。
3 ・もとにする量と割合を知って、比べる量を求めることができる（表）（知）			・比べる量を求める問題を解くことができる。	・「15人の0.8倍の人数」を求めればよいことを理解している。 ・比べる量の求め方をまとめている。

（表3） 「割合」の目標分析表

目標分析表は、単元の教育活動の全体に目を配り、そこでのポイントを精選、構造化するための基礎作業になる。

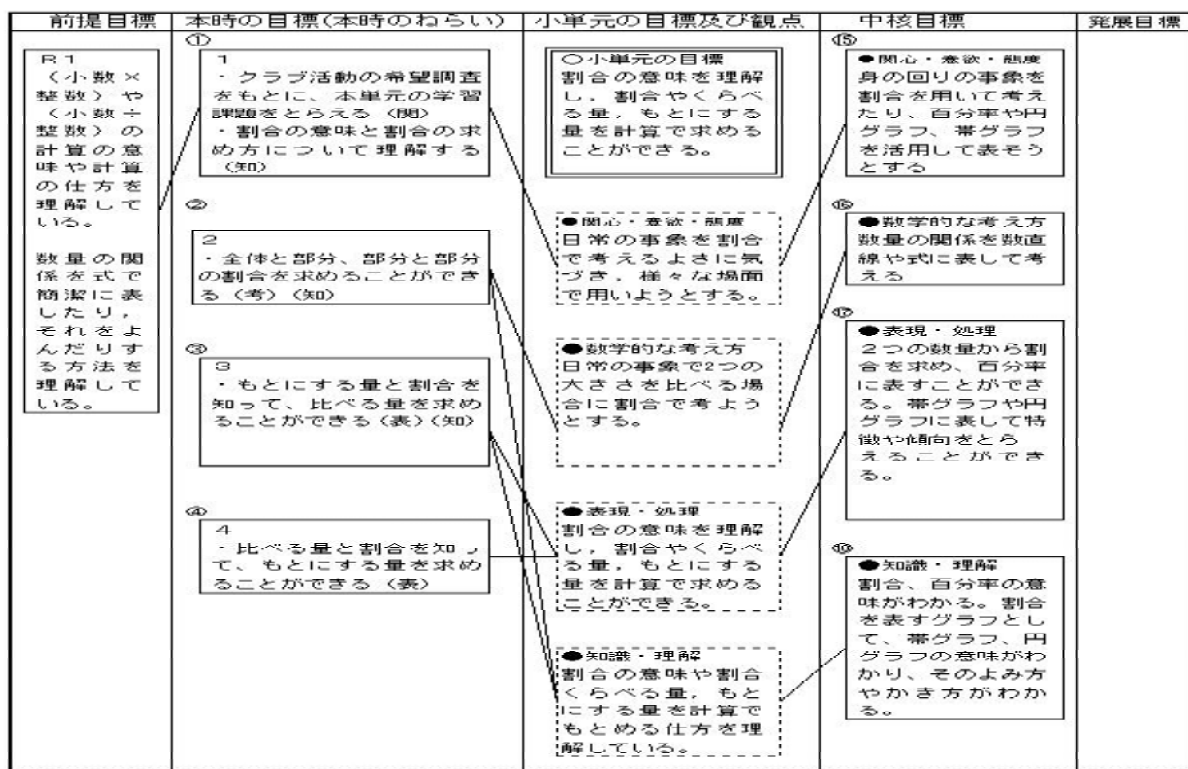
縦軸に小単元（授業時間）、横軸に4観点を取り、2次元のマトリックスを作成し、マトリックスの個々のマス目に、それぞれの小単元で重要だと考えられるねらいを書き入れていく。

(3) 目標構造図の作成（目標の精選と構造化）（表4）

目標分析表で洗い出した目標群の一部を割愛、集約し、単元を単位とする活動の全体構造とそこでのポイントや系統性を明確にするため、目標構造図を作成する。

この目標構造図を作成する過程で、「中核目標」やそれを支える「基礎目標」、その単元の学習を進める土台となる「前提目標」の関連性が明らかにされていく。

「指導と評価の一体化」を実現するためには、目標分析と目標構造図の作成が欠かせない。



（表4） 「割合」目標構造図（目標の精選と構造化）

(4) 指導順路案の作成

目標構造図をもとに、時間的な流れの中に各目標を配列する。すなわち、各授業時間ごとにどの目標をどういう順序で扱うかを明らかにする必要がある。

目標構造図の作成のところで述べた前提目標・基礎目標・中核目標・発展目標をもとに、各授業時間の目標を決める。そして、目標を達成するためには何が分かっているから学習順を考え、あらかじめその流れを考えておく。各項目につけた番号を指導の流れに従って下記のように示す。

第1時	R1 → ① → ⑮	第5時	⑤ → ⑮ → ⑱
第2時	② → ⑮ ② → ⑮	第6時	⑥ → ⑮
第3時	③ → ⑮ ③ → ⑮	第7時	⑦ → ⑮ ⑦ → ⑮
第4時	④ → ⑮		

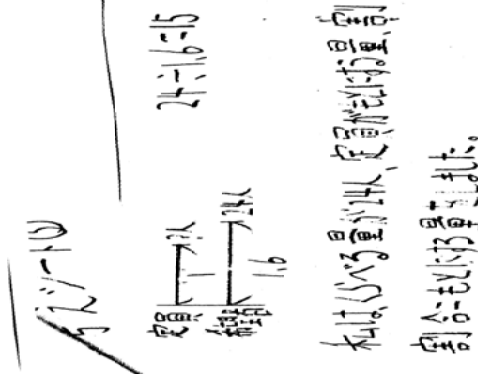
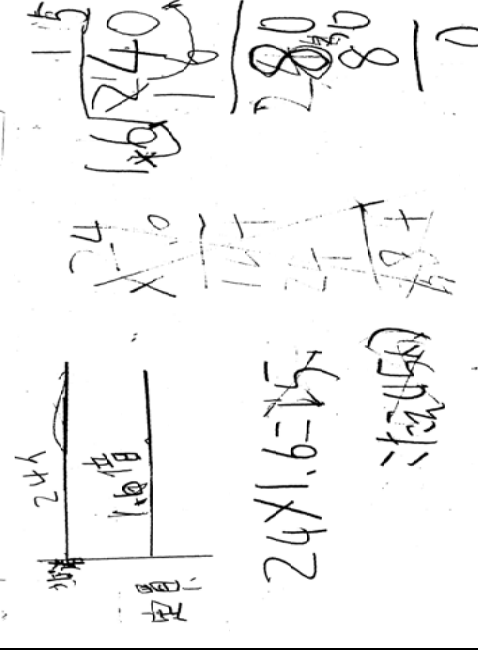
(5) 単元指導・評価計画一覧表の作成（表5）

指導順路案を肉付けする形で、単元指導・評価計画一覧表を作成する。

縦軸は、1時間ごとの目標や学習活動の内容を示している。また、横軸は「評価規準」「評価観点」「評価場面」「評価方法」「判断基準」という評価活動の要素となるものを表している。

本時の目標 学習内容	診断的評価 形成的評価 総括的評価	評価目標 (評価基準)	観 点			評価場面	評価方法	「十分満足できる児童 の状況」 ※児童の反応例及び 解釈	「おおむね満足でき る状況」と判断した 児童の状況 ※児童の反応例及び 解釈	☆「努力を要する 状況」と判断され る児童への具体的 な対応・手だて
			関	考	表 知					
4 - 比べる量と割合を知つて、もとにする量を求めることができる(表) - 問題の把握 - 問題の解決 - 練習	形成的評価	比べる量と割合を知つて、もとにする量を求めることができる			◎	- 関係図や線分図をもとにして、もとにする量を求める場面 - 授業終了時	- ノート - 評価問題	○数直線などを用いて数量の関係をとらえ、全体と部分の関係をえて比べ方を考えることができる。 ※数直線や帯の図を用いて数量の関係をえ、全体と部分の関係を理解している。基準量と比べる量、割合の関係を筋道立てて(図や言葉・文章で)表現している。	○定員を□人として数量の関係図を活用して、図をかくて考えさせる。 ※課題文をよく読み、与えられた条件を図や絵に表すように助言する。	

(注) ○印は検証授業前に立てた判断基準、※印は検証授業後の児童の反応例

「十分満足できる状況」の例			「おおむね満足できる状況」の例			「努力を要する状況」の例		
								

(表5) 「割合」における、診断的評価・形成的評価・総括的評価の観点別学習状況の評価方法と判断基準など

Ⅲ 検証授業での学習活動（第5学年 算数 単元 【割合】）

- 1 第1・2日（ねらい）①クラブ活動の希望調査をもとに、本単元の学習課題をとらえる。（関）
②割合の意味と割合の求め方について理解する。（知）

検証授業の主な学習活動・内容	評価の観点
- 課題把握（個人思考、グループ学習） 定員と比べて、希望者が多いか少ないかの判断の仕方を、サッカーとソフトボールのクラブについて考える。 - ソフトボールとサッカーのクラブについて考察 問題文を読んで、希望者は定員の何倍かをソフトボールとサッカーのクラブについて考える。 - 割合の意味と求め方の理解 割合の用語を知り、割合の求め方をまとめる。 - 練習	評価 クラブ活動の希望調査をもとに、2つの量の大きさの比べ方を考えようとする。 評価 割合の意味とその求め方について理解している。 ※自己評価を行う。

- 2 第3日（ねらい）全体と部分、部分と部分の割合を求めることができる。（考）（知）

検証授業の主な学習活動・内容	評価の観点
- 問題の把握 - 問題の解決（個人思考、グループ学習） 関係図や線分図をかいて、125人の口倍が75人であるという関係に気づく。 - 部分と部分の問題 問題文を読んで、部分と部分の割合を求める問題であることをつかむ。 文化クラブの人数の口倍が運動クラブの人数であるという関係に気づく。 - 練習	評価 関係図や線分図を使って、全体と部分、部分と部分の割合を求めることができる。 評価 割合の求め方を理解している。 ※自己評価を行う。

- 3 第4日（ねらい）もとにする量と割合を知って、比べる量を求めることができる。（表）（知）

検証授業の主な学習活動・内容	評価の観点
- 問題の把握 - 問題の解決（個人思考、グループ学習） 「15人の0.8倍の人数」を求めればよいことに気づく。 - 言葉の式への一般化 比べる量の求め方をまとめる。 - 練習	評価 もとにする量と割合を知って、比べる量を求めることができる。 ※自己評価を行う。

- 4 第5・6日（ねらい）比べる量と割合を知って、もとにする量を求めることができる。（表）

検証授業の主な学習活動・内容	評価の観点
- 問題の把握 - 問題の解決（個人思考、グループ学習） もとにする量の求め方を考える。 - 練習	評価 比べる量と割合を知って、もとにする量を求めることができる。 ※自己評価を行う。

- 5 第7日 〈ねらい〉①百分率の意味及び百分率と小数倍との関係について理解する。(知)
②身の回りから百分率を探して、百分率への興味・関心を高める。(関)

検証授業の主な学習活動・内容	評価の観点
・問題場面の把握（個人思考、グループ学習） 問題場面を理解し、定価の60パーセントの意味を考える。 ・60パーセントの意味の理解 小数倍を手がかりに、0.6倍と60パーセントは同じ意味であることに気づく。 ・「百分率」の用語と意味の理解 ・百分率と小数倍の関係の理解 ・さがしてみよう 身の回りから百分率をさがして、百分率への興味・関心を高める。	評価 百分率の意味、百分率と小数倍との関係を理解することができる。  評価 身の回りから百分率を探して、百分率への興味・関心をもとうとする。 ※自己評価を行う。

IV 検証授業での成果と課題

1 評価に関して

IとIIで述べた改善点や評価方法に従って学習指導を行った。その結果、授業中の児童の様子や児童の評価シート、授業後の感想等から、「課題を考えることが楽しかった」「学習内容がよく分かった」等の意見を得ることができ、算数への「関心・意欲・態度」の観点においては、一定の成果を上げることができたと考える。

しかし、評価計画を授業に生かすためには、授業時間内に児童の学習した成果をチェックし、次の学習のポイント等を児童に返す評価方法を工夫することや、実際の児童の反応例をできるだけ多く集めて、より確かな基準を設定した評価計画表を作成する必要があると感じた。

2 グループ学習・自己評価活動に関して

今回、学級全体の中ではなかなか意見を出しにくいと思われる児童に配慮して、小グループ（4～5人）での学習を試みた。

また、自己評価シートは、児童に学習の見通しやめあてをもたせることをねらいとして、本時の授業のねらいを明記するとともに、教師が、その日の授業でできているポイント（分かっていること）と、その子のつまずきやどうすれば解決できるかというようなコメントを返してやることで、次の授業への意欲づけを図る工夫をした。図1は、自己評価シートの一例である。

このような学習活動に対して、児童は、「友達と話し合うことが楽しかった」「グループだと意見がいっぱい言える」「～さんたちのグループの図が分かりやすかった」「分かりにくかったところが友達に教えてもらって解けた」「みんなに僕の考えを理解してもらった」「～君、…さんの考え方が分かりやすかった」「友達のおかげで間違いが直せた」「図や式を友達に聞いて他にないか考えた」等の感想を書いている。

このように、課題を考えることの楽しさや学ぶことの楽しさ、自分の考え・意見を受け容れてもらった満足感や充実感を味わうとともに、教師が適切なアドバイスをしたり、他者の意見や考えを聞くことで、さらに自分の考えを深め、幅の広いものの考え方に気づく児童の姿が見られた。

自己評価力を高めるためには、お互いの考え等を相互評価すること、つまり、友達の自己評価や学習活動を参考にして自分の学習をふりかえることが重要である。

グループ学習を進めることは、子どもの自己評価能力を育成していく上でも有効であることが確かめられた。

一方で、子どもの集中力が途切れてしまわないように、自己評価シートへの記入は授業時間内に行うことや、評価項目の内容や項目数、実施時期の検討など、課題が残った。

ふりかえりシート⑥

5年

授業日 11月4日(火) (2) 時間目

今日の学習をふりかえてみましょう

【今日の学習のねらい】

・「もとにする量」を求める問題を解こう。

先生より

前に学習したふりかえり方を思い出して、今日の学習にあてはめようとする。そのふりかえり good です。とても大成功だね。



11/4

下の内容について、あてはまる番号を○でかこんでください。また、その番号を選んだ理由を書いてください。

内 容	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その番号を選んだ理由
ア 今日の学習は楽しかった。	1 ○	2	3	4	みんなで問題をだしたから。
イ 自分から進んで学習に取り組めた。	1 ○	2	3	4	一人でやらなあの人があった。
ウ 自分の考えをじゅんじょよく書いたり、友達にわかるように説明することができた。	1	2 ○	3	4	あまりしゃべるときがなかった。
エ 友達の考えややり方に興味・関心をもてた。	1 ○	2	3	4	小林君の口を使う式にきろみをもった。
オ 今日の学習のねらいを達成できた。	1 ○	2	3	4	問題をきっちりした。
カ 問題が解けなかったとき、自分がなぜ解けなかったかをふり返って考えようとした。	1 ○	2	3	4	前の市橋のやり方をおもいだそうとした。
キ 問題が解けたとき、別の解き方はないか考えようとした。	1 ○	2	3	4	みんながいろいろ書いてたからぼも考えた。
ク 今日学習したことを、自分の身の回りの生活の中で使おうと思う。	1 ○	2	3	4	きょうのは、あつかもから。

(図 1) 自己評価シートの一例

授業後の子どもの感想をいくつか拾い出してみる。

- ・ みんなの意見を聞いていたので、間違えたまま終わることはなかった。(A児)
- ・ 授業中説明をすることができるので、説明の練習になった。友達の話し合いを聞いて、いい考えが浮かんだ。(B児)
- ・ グループ学習で、みんなの意見と私の意見が違ったとき、みんなに教えてもらって分かったときから、私はグループ学習が好きになりました。画用紙に自分たちの意見を書くときに、みんなで話し合っているとき、どんなにして書こうかと迷って、いろいろな意見があつて、まとめるのに少し苦労しました。でも楽しかった。難しかったけど、とても楽しかった。(C児)
- ・ グループ学習をすることにより、あやふやだった問題も解けるようになりました。(D児)
- ・ チーム活動や図をかいいたりするから、すごく楽しいです。チーム活動の時は、僕が分からなかったときに教えてくれたり、いい意見をいっぱい出してくれました。一人でするときは、横にいた〇〇君に教えたり、教えてもらったり、一人の時でも楽しかったです。授業で習った式や図は、3学期に習ったら使いたいです。(E児)
- ・ 答えが出ずに困っていたとき、先生にヒントをもらって、こういうことかと納得しました。(F児)
- ・ 画用紙に書くのがすごく楽しかった。ふりかえりシートに記入することが少しめんどくさいときもあったが、楽しかった授業の時のふりかえりシートへの記入はワクワクした。(G児)

児童の前述した気持ち(特に波線部分の表現)が、次への挑戦行動につながり、その結果、「自ら学ぶ意欲」が学習行動となって現れ、その学習行動の結果として得られる感情が、「楽しい」や「満足」として表れている。

意欲的・主体的に学んでいる場合、問題がうまく解けたときはもちろんであるが、うまく解けなかったときにも、ある程度の満足感や楽しさを感じていることが読み取れる。このような感情が、次の学習へのステップや意欲につながっていくと思われる。

V まとめ（学習意欲を高めるための評価の在り方）

今回の検証授業では、子どもの主体性や学習意欲を引き出し、伸ばすための評価の在り方を工夫した。

目標やつきたい力を評価の観点から見直したものが評価規準である。そして、それぞれの観点でどのくらいのレベルの力がついているかを判断するため、評価尺度とその内容を記述する指標（具体的なサンプル）からなる評価基準を作成した。この評価基準を作成したことで、児童の現在の力はどのくらいか、向上させるためには具体的にどのような指導が必要か、またどのような支援をすれば子どもの力が伸びるのか、といったことを想定することができた。同時に、児童が学習を進めていく際に、児童の学習意欲がわくような課題や発問はどうするか、補助教材はどうするかといった具体的な項目を考えることで、見通しをもって指導することができた。

具体的に述べると、ねらいに沿った児童の学習活動で、できたところまでを認めほめた上で、次の学習につながる支援、すなわち、以前と比べて進歩した点はどこか、伸びた点はどこか、できなかったことができるようになったところはどこか、といった具体的な変容をきちんと見取り、そのことを児童に素早く返した。特に「関心・意欲・態度」の観点は、数値等で評価することが難しいため、このような支援を日々繰り返し実施する必要がある。その結果、「先生は僕のことをきちんと見てくれている」といった充実感や「自分もやればできる」といった自己効力感を持ち、意欲的に学習に取り組む児童の姿が多く見られた。

また、頑張るべきポイントを同時に伝えたことも、次にしなければならない具体的な学習活動がわかり、やる気につながったと考えられる。

さらに、学習過程で、教師の支援により、自分がどこをどうつまづいていたかがわかり、あとの学習活動がスムーズに進んだといった場面も多々見られた。

このような学習活動を展開するためには、「どのような子どもを育てたいか」、「子どもにつけてやりたい力はどんな力か」、ということをお大前提として学習指導の計画を立てる必要がある。特に「関心・意欲・態度」の情意領域に関してもきちんとした目標を立てなければその実現は難しい。大まかな評価や印象による評価になってしまうおそれがあるからである。このことを達成するためには評価規準の作成が不可欠となる。

「目標と指導と評価の一体化」や「個に応じた指導」といわれているが、このような一つひとつの積み重ねが実は最も効果的な指導になるということを、検証授業を通して確信した。そして、今回の研究成果を他学年にも用いることで、6年間を見通した系統立った指導ができるようにしていく必要があると強く感じた。

〈参考文献〉

- ・梶田叡一 『教育における評価の理論 I』 金子書房 (1994)
- ・桜井茂男 『学習意欲の心理学』 誠信書房 (1997)
- ・桜井茂男 『自ら学ぶ意欲を育む先生』 図書文化 (1998)
- ・和歌山県教育委員会 『小・中学校評価規準例』 (2002)
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター
『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（小学校）』 (2002)
- ・北尾倫彦・青柳偕行 『観点別学習状況の新評価基準表』 図書文化 (2002)
- ・京都市立永松記念教育センター 『授業の工夫改善につながる学習評価』 (2002)
- ・福岡市教育センター 『小学校 評価実践事例集』 (2003)
- ・加藤明 『評価規準づくりの基礎・基本』 明治図書 (2003)
- ・京都市立永松記念教育センター 『授業の工夫改善につながる学習評価Ⅱ』 (2003)
- ・中央教育審議会答申
『初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について』 (2003)